

ま え が き

グローバル化の進展や人工知能（A I）の飛躍的な進化、生産年齢人口の減少など、社会の急激な変化の中にあつて、義務教育に携わっている私たちには、知・徳・体にわたる「生きる力」を子どもたちに育成することが急務となっています。このような中、『よりよい学校教育を通じてよりよい社会を創るという目標を学校と社会とが共有し、連携・協働しながら、新しい時代に求められる資質・能力を子供たちに育み「社会に開かれた教育課程」の実現を目指し、学習指導要領等が、学校、家庭、地域の関係者が幅広く共有し活用できる「学びの地図」としての役割を果たすことができるよう、6点にわたってその枠組みを改善するとともに、各学校において教育課程を軸に学校教育の改善・充実の好循環を生み出す「カリキュラム・マネジメント」の実現を目指す。』という平成28年12月の中央教育審議会答申を踏まえた学習指導要領改訂の方針では、

- ① 育成を目指す資質・能力の明確化
- ② 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善の推進
- ③ 各学校におけるカリキュラム・マネジメントの推進

の3つの柱が示されました。

福島市小学校長会カリキュラム委員会では、「生きる力」を育成するために何よりも重要な授業改善のために、『『確かな学力』を向上させる授業づくり』の研究主題の基、平成28年度は副主題を「アクティブ・ラーニングの視点から」、平成29年度は「主体的・対話的で深い学びの視点から」として研究に取り組んできました。

そして、本年度は、平成32年度の新学習指導要領完全実施を見据え、新学習指導要領の趣旨や内容を生かした授業の充実・深化につながる研究を進めてきました。本研究の中では、主体的・対話的で深い学びのさらなる具現を図る授業実践と、移行期間1年目という年度を踏まえた移行措置内容の確認を行っています。そのため、本年度の研究主題を『『確かな学力』を向上させる授業づくりⅢ～移行期間における指導資料～』として発刊しております。ここでは、

- 国語、社会、算数、理科、生活、音楽、図画工作、家庭、体育、道徳、特別活動、外国語活動の各教科・領域について、研究に取り組んでいます。
- 各教科・領域とも、始めに【授業改善に向けて】のページを設け、その教科・領域で育むべき資質・能力と主体的・対話的で深い学びの実現に迫るためにはどうあればよいかを述べています。また、そのことを【授業改善の視点】として端的に表しました。
- 次に、移行措置内容に関わるページを設け、追加・省略・移動した学習内容や留意事項を示しました。
- 実践事例のページでは、授業改善の視点の有効性について検証し、それを事例としてまとめています。また、検証授業から得られた視点の有効性や課題等についても述べ、各学校における授業改善に生かされるように配慮しました。

各先生方におきましては、こうした経緯や意図をお汲み取りいただき、日々の授業を見直し改善するための資料にしていただければ幸いです。また、本研究資料は、白パソコンの「デジタル職員室」から「授業」「小カリキュラム委員会」に入っていただくと、そこに掲載されておりますので、併せてご活用ください。

最後になりましたが、本資料作成・発刊に当たってご指導・ご助言を賜りました福島市教育委員会様をはじめ関係各位に御礼申し上げますとともに、校務多用な中、資料作成に取り組んでくださいましたカリキュラム委員と専門委員の先生方に心より感謝申し上げます。

平成31年1月

福島市小学校長会カリキュラム委員会委員長

